小六壬発覚 全
へ13
3163

へ13
3163

へ13
3163

邯鄲諸國物語　人和の巻　全八冊　柳亭種彦作　歌川國貞画

天保六乙未年春新刻

花陰賤女俳優　柳彦校　笠亭仙果作　全四冊　歌川國虎画

關東小六昔舞臺　川枝　全八冊　柳亭種彦作　歌川貞秀画

明春子歌鶴巣籠　全四冊　飄亭種繁作　歌川貞虎画

四刻花紅巣の紫若衆　全四冊　柳亭種彦作　歌川國貞画

國字水滸傳　第十三編四冊　柳亭種彦譯　歌川國芳画

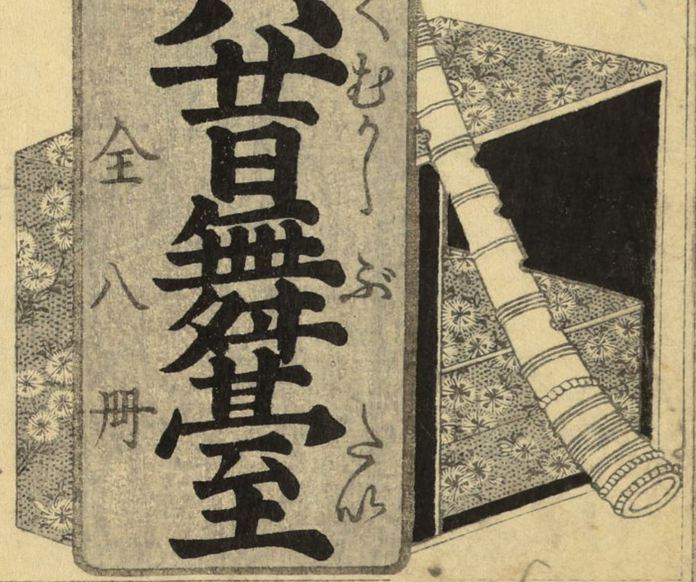
平本製初編後帙　入如表　柳亭種彦作　歌川國貞画

天保乙未春刻

關東小六昔舞臺

本ハ八の巻
上冊
全八冊

柳亭種彦作
歌川貞秀画



永壽堂西村屋梓

壁言喩猫の形牛ほど大なるときへ口へ家を呑べく眼へ金色の盆と輝き人怖れて近づべくもなし。牛。猫の如く小さも角づき合の憂あれば膝ゐのせそろ養ひ難し。三畳臺目の浄らるるも寺子屋の間ゐ合ぜ。二間四方の雪隠へ穴ほどひしと暗がりゐへ不便のゐもなるべし。されば大も大。小へ小なるこそよけれ。此冊子七年前中合巻とふりのゐ彫こそ。茶客ゐむさくろしく。手習子ゐへせぞきことそ。見枝子とゐろこそゐ年玉の箕へ投こまれ。角の唖える姉さまの陣愛敬ゐちりうせて。見へ人るゐとそ板元の普請のはひでゐ八冊ゐ建るゐ。しゐが巡用とる能もるれば重きを運ぶ力もかよつきき拙作へ彼牛猫の論ゐも当らぎ再反古と朽るるべし

天保乙未春

柳亭種彦

關東小六
竹や
蝶々子
投田七庵
実ハ神樂願西
住吉の
戈麻呂
鞠垣
左衛門の女
桃花

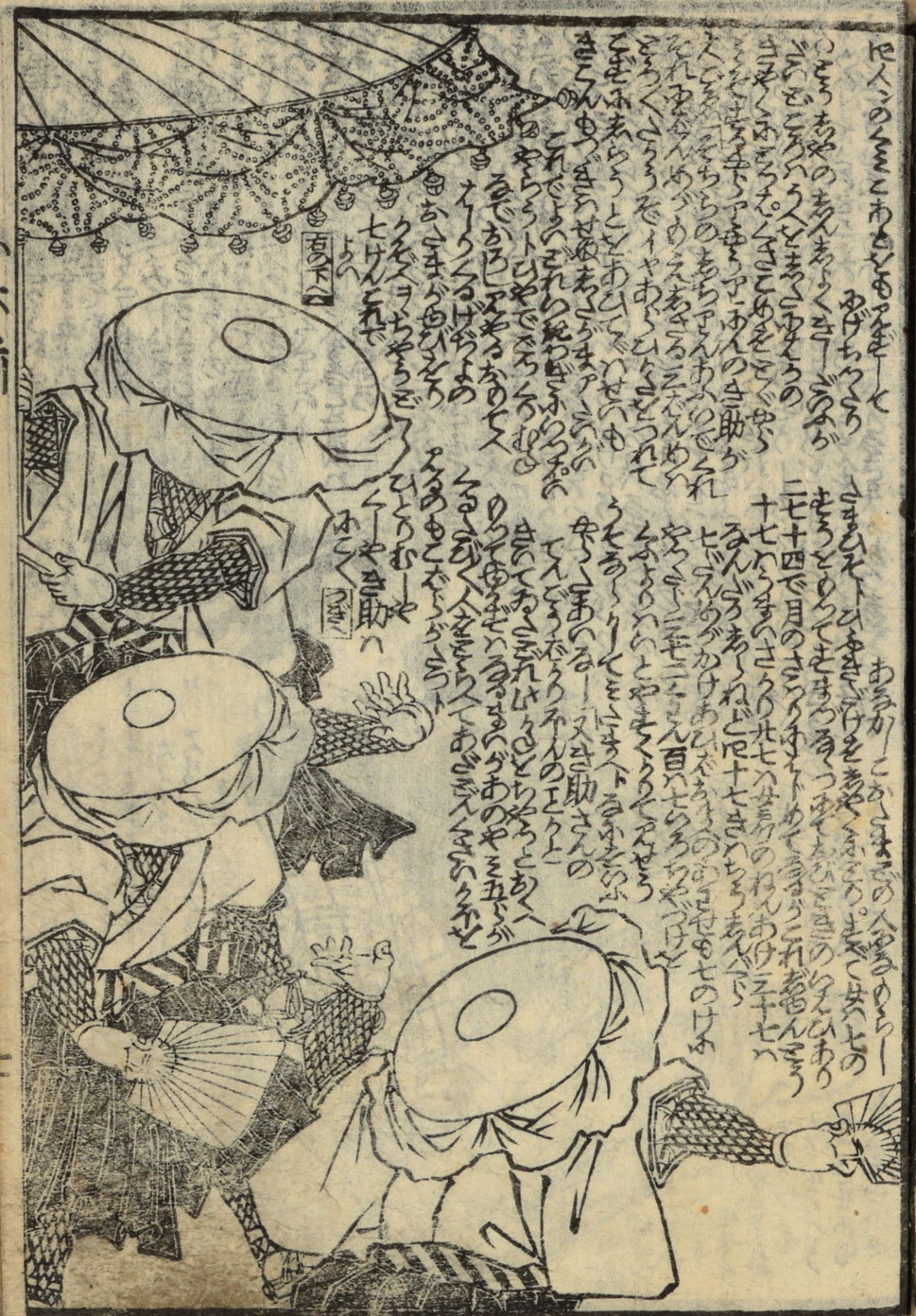
鞠垣の乙女
小櫻
鯛い
料理人喜助
実い鞠垣
左衛門の
長子 延太郎
月
キ角
初鰹よ目を
若炯草
圍
水
延太郎の
妻
吉野

桃
小

桃

月
行

桃
小



左の
右の
中の
下の
王
き

胡録笑博多
景野
津江元者赤
五

天保乙未春
再板
前帙
下冊
西村屋
梓

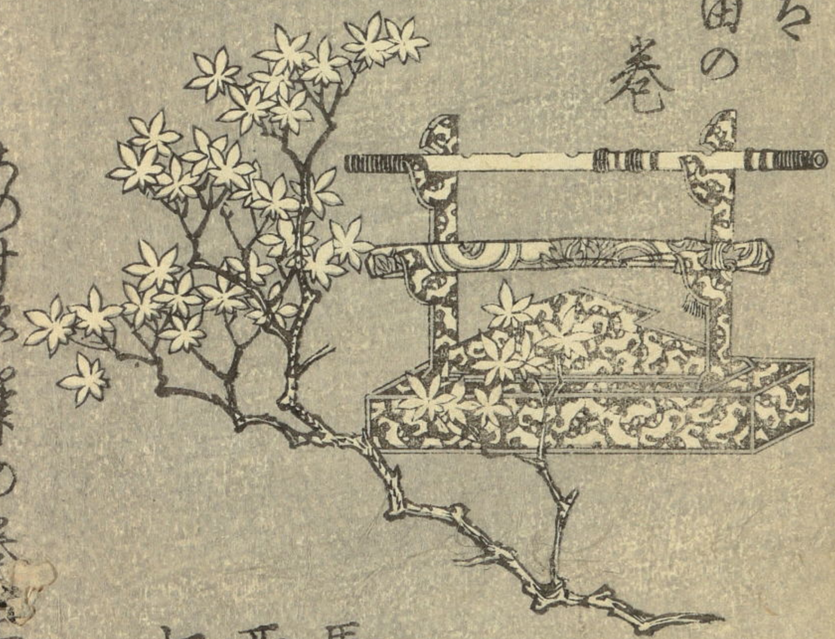
種彦作
貞秀画
筆耕
金川

関東小六

中之巻

笛の巻

種彦作
貞秀画



あのすゑ筆の巻上下共
金部賣出し

馬喰町
西村屋
板

桃
梅
桜

延
千
小
桃

願
吉

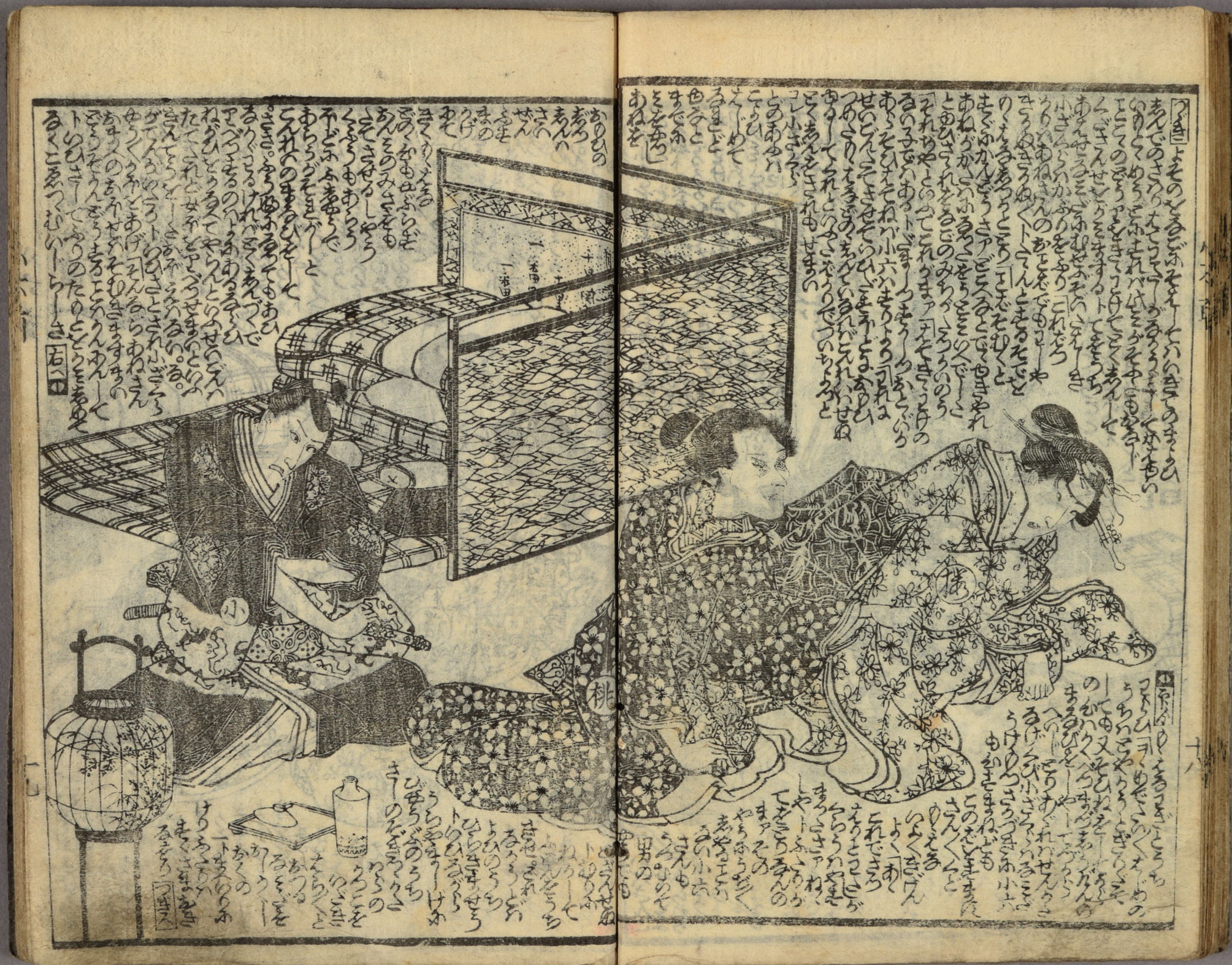
延
桃

つぎへ
そのあとときのあのさくらがゆ
いろくでるで
あちらこちらと
あそこへ
あきこんとんとものふ
やうわきまー
あちらこちらと
づいくり
そりふし
まいてぐさんまち
きちがひ
れくが
ついてある
のか
ちがひ
いまいと

桃
延
千里関山
千里色
一番乗
一番乗

桃

小



つぎ三 よそのとるごぶそそーとハいきてのまーひ
ゑんでのさわりなとうとうるゑうとうとうとうとかなもい
いのとくめうとふもれハはとがそやもきーと
ととてのぞうやもきてうけてとくゑんーと
くごさんせとうとをすると てをうち
あそせうとこをふむせふそハこそーき
小ざんらいかぶりをふり「これなろ
うりいあねさんのおとそでもこーや
きうゑぬきろぬくトさてんとまるそでと
りくえうるあうとところ「エそでそむくと
まそぐふかんどうさアどえるとでやきゑれ
あねうがかいふるとをうとをとをのくでーこ
とあひさてれそるどのみちうーろうろいのう
「それややとのてこれうまア「えそきうとけの
るいみでいあるトでまーつまうーつまとでいう
あうとそれそれハ小六ハまうとうろ「これは
せのどんさてきせそうひでまそうとまあひ
つあさりえうるでくゑんているれハとれハいせゑ
あるーてこれとのつまでうりでついちうゑと
とくゑんをとされも せまい
コレ小さうで
とのあゑい
こうひ
えーめて
るうまど
色なと
までふ
とをゑ
あねを

ありひの
ゑんへ
さへ
せん
ふを
まの
うげ
ゑそ
きてうくえそ
でくかもぬふらぞ
ゑんそのみさそも
とそさせるしやう
くふうもあらう
そどふふゑうで
あらうがそまうーと
これれのまるひをーと
ささ。ふうゑゑうてもあひ
るくこるけれがさくゑんづく
てでうまるのいうあるゑくひ
ねうひとうるてやうんとうのせうこんへ
たてこれとなそとてうせまのとりよ
きんてうそーさあそえうるい。る。
ゲでんういうトうひさとされふざそう
ゆうくうゑとあげ「そんならあねさん
あまくのあかせそそもきゑすまの
ぞうそうんぞうまろこうんゆんーと
トのひさーてゆりのたのとをうをあを
るくこるつむいーらーさ 右八

桃

小

桃

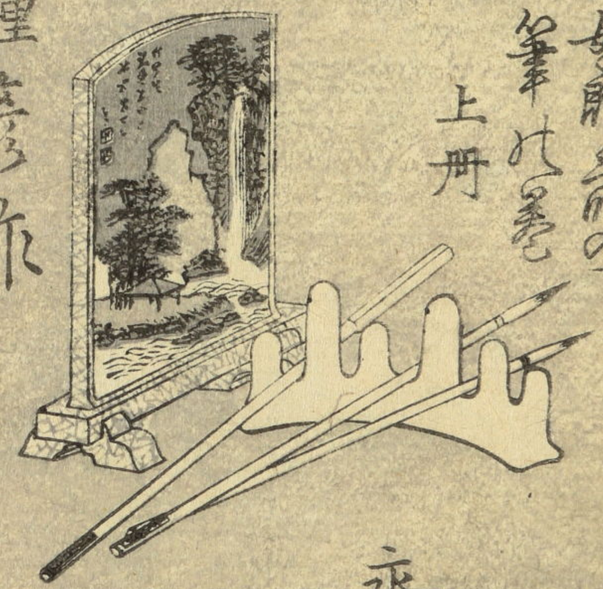
関東
小六八
後帙
上冊

つぎ
貞秀画
柳亭種彦作
筆畊
金川

關東小六

天保乙未翻刻

柳亭種彦作
歌川貞秀画

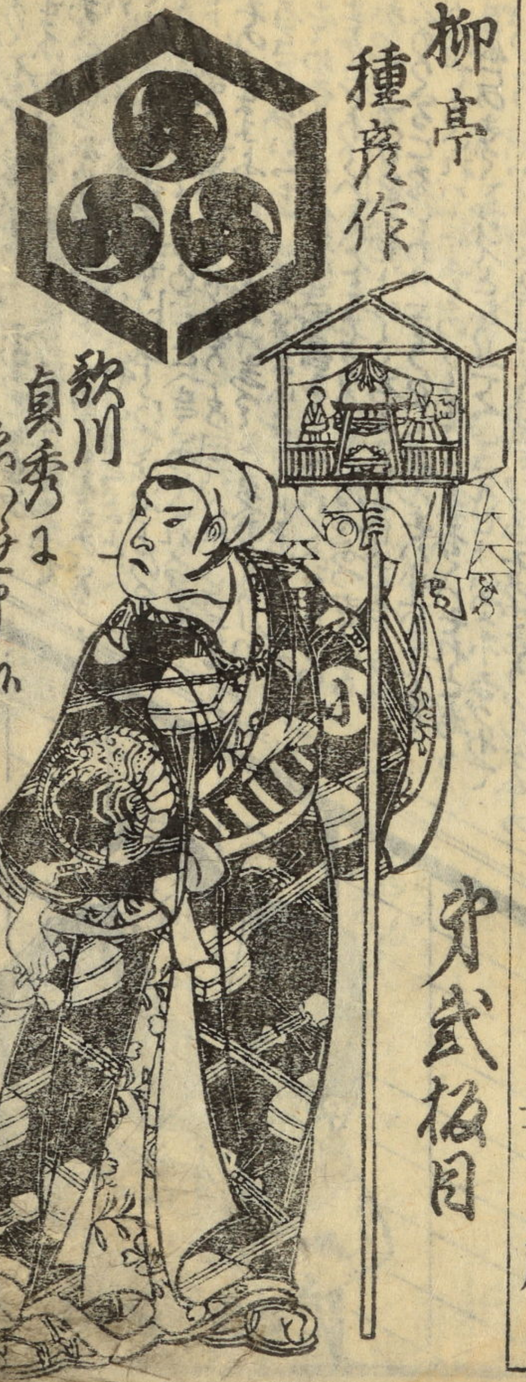


赤ん坊郎の筆ゝ美

上冊

永壽堂上梓

柳亭種彦作



歌川貞秀

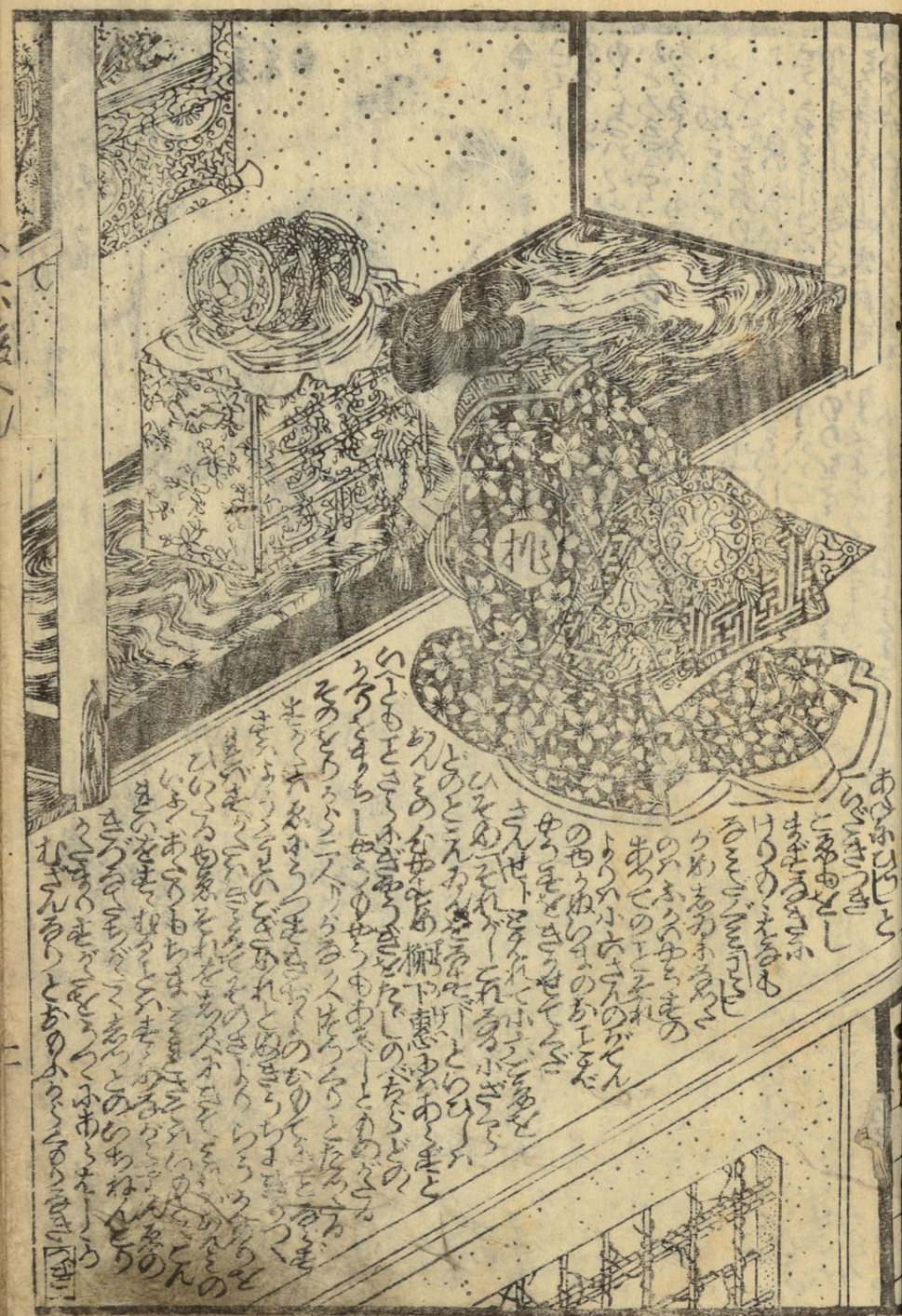
昔舞臺八冊續

小六後ハん

關東小六後帙

武板目

駿河町
西村屋板
二丁目角


桃

小

桜

小
桃

南無薬師大菩薩

貞秀画 種彦作

つゞき

上冊より

ちうとうそうで
かくらぐらえさい
それとでるとうろ
ちきごいねしー
あふせちまうこ
ぐんえぐえぐ
つもへまんも
さえんーしてて
うぐびて
そのふ
てのらく
あやうさい
ごりけん風を
そらつて刃たら
ふまとろもくへあれを
ひーきいてごぶーとあぎり
のべそらこぶーとあぎり
うちあぐるぶをさらーて
うつりとこまうけそう
ぜんとふれをそそがえさ
ていうふよをうべー
ひとうぐこひきまりぞき
ぐれもつれをそらされよまくぐば
さそうトのぐそらつれをつるそ
ところへまでいよあつまるぶのそどもよいの
いまるまうときごこのうんまひつりけてうづく
きるまあぐんいぬたうまきろぐろもつまハ
さとこうとで小そでともいたのんさて多ぐし
らもまひさるひきろふうまものうおひぶの

右へ

左分

○よのうきことまあふをぢやかくさきの
あんまつよよとのれうかとていいあふの
もくへ小ふのありまよくぐこひくく
くらせーうあるあぐれよりくえあい
ずとけゆさぐるなんうまんとあるまの
さとえいでやけば
小ざくらいふつぐんを
えききろて
みあーくと
かぐるさでふ
こまるさ
るこぐ
さわけの
こうの
まを
かりひ
くこ

左へ

ぢうとえるあさつまの
さてちめくら
のかこあさ
ぢうとてのつぐこやぞんれ
さとでるうてのつぐこやぞんれ
ヲイあひごさぐろへめひまぜん

つぎへ

乙

未

くるん
ぬきうち
おうぎ

種彦作
貞秀画

筆乃巻
下冊

金井大尾

馬喰町
丸屋
河内屋
作

翻

刻

つぎ　のぞきもくるひぞ
あまりさへうちのら〜
たるのべたら
くつのとの
てふちくびひそうぜんも
つのようらくめいらくく
しそのこのこの
ちゑつとゑこ
ろりろ
とのふ
とうごく

さてふこうげ
とゆふあくとうひそうふ
こそときけるこ
ころりけりく
きれのあ〜りつふもくきるがあるとき
うかびこれがむりわかりりふぐの
やうるふこれづらそのうくまめうたえも
のうりやくおっこいやとふりむくとるふ
きやうのんをうつーとおこそのりどのそれ

それ〜こひごうたつこ、せるうり
たてけびやこをあら「ゆきふ」そうこどの
とりのごけらいをあこうきこのこ
あやくこのうこと〜これがこのこの
そくのうこと〜これがこのこの
らふゆいあふまのあかくの人よ
たこふるくこころをあるこ
かひとりでいとーぐそんこ
ころりうこまげ
るのとでい
ないう
さあ
人の原
から見
ちろ
ちろ
ちゑ
ちゑ
ちゑ

つゞき　女をうれて
ゑんるがくら
ゆふまま
のうて
ぞぎれ
ぐんぢやうる
せんぞうも
四五人ゐれが
よちんが
あいてが
かうてもゐひも
さてせあけゆぢうゆい
ちうてちんせうそんな
エぞゐれがちやくだい
あようごとこせうト
ふるそこトより
ときいぐーさる
うやよきき
むまめ
こいまくそくぬ
あそんりあさ
ものもりひえあ
さるくつさ

◀さてハ　人くひあるまかト

◀ぐんのせんぞう　人ちうあだら　ゐれ

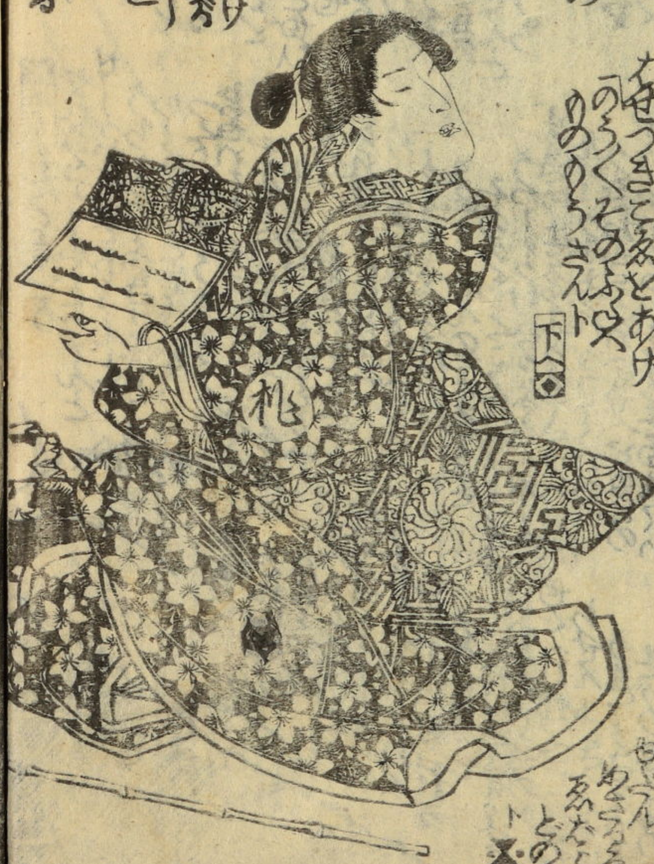
をとたゞし人やきく

うゐとらふさいふをを
さきをけうのエぞあらう
ひとりいさきび五丁三丁　四の巻

五の巻　あかえあんどしてさっとされト
をくめゆこ人こかゑそあらせ
られさいひとゆざくくをむりふ
ひりくそのりうてこそまちち
ちゑゆてあのびゐる

つゞきのあとより
ものりうきよとくそんれんーこを
たこふれりひうけまろあものりあひ
きりさくうひうえろるがらの者
ぎやうのたびゑんくうろうざ
ひさうくて今いたむけのゆどろも
けんさいとりふりもむりふ
かるくうんこうこいいゆりうをゞ
ゐるところよそるがらりうけんせんと
くさふうぐとうちうそかることころ人
るひこををうるかるこのめるねの女
むゆより十七八のめるねの女
つえとかっこををちちくけだてを
くやーるゞだとりうきりこいくて
くゑゆがごとくくれーりつまづき
けきたりのうくとこるとりけ
ゐりうこのこふのきこゐりいあそう
ゆそあくきをべーこうそとれをよくくて
たべトさーりこーたるゆんたがん
小六をふゆんさまやらを女のうそと
ようくそれがうこゞひもるきのこるをり
かこふゆりけーいゆりまゆてゐぶぬきすそー

◀ゆたてだとり
やれるりーやとのそんと
せーゞやうまをわうんと
うちゐそーふきうこざと
かくびりーとそもを
つりきやうりんぞく
ゐいそうのやくいとく
ゐきことるうがとろえ
やうきあきちをのをゞこ
ゐるくちゞのとうこと
ゐるるゞこるゞう
きりそくとねがひーい
ゐるところんのとるくゞを
ゆりうけこるんいのりうをゞ
ゐいりうけるふりんがん
ゆくりうきくこるん


桃

小

小

卯

門
吉
小

漢楚賽擬選軍談　毎編八冊三篇迄　曲亭馬琴作
出来仕候

代諸侯著聞集　毎編八冊第一篇下帙出来　右同作　北尾重政画

落窪物語　全四冊　林屋正蔵作

雅亭岸峰帯座蜘　歌川貞秀画

怪談牡丹浪　全四冊　右同作　歌川國貞画

東海道四谷怪談　各三冊宛入本　東海道四谷怪談　歌川国貞画　鳥居清長画

活金剛傳　各三冊宛入本　香蝶樓國貞画

新刻の花魁手車　一冊　歌川国貞画

繪本頼朝代記　全四冊　満人作　歌川貞秀画

西村屋與八

貞秀画種彦作

清書谷全川